

第30回恵那市歴史的風致維持向上計画協議会 会議要旨

日時：令和8年5月18日（月曜日） 13：30～15：00

場所：恵那市役所西庁舎4階4A会議室

公開又は非公開の別 公開

出席者

出村嘉史会長、後藤俊彦副会長、伊藤英晃委員、山田敏之委員、堀誠委員、鈴木繁生委員、佐橋誠委員、西尾功委員（代理出席）、鹿島信貴委員（代理出席）

欠席者

林一輝委員

傍聴者 0名

1. 開会 (13:30)

2. 委員委嘱

全委員に対して委嘱を行った。

3. 役員選出

会長に出村委員、副会長に後藤委員

4. 会長あいさつ

出村会長

本年度、会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

この歴史的風致維持向上計画については、これまでも繰り返し考えていることですが、最終的に「どのような姿を目指しているのか」という将来像が、誰にとっても分かりやすく見える形になることが重要だと感じています。

本日のように報告書や評価シートを見た際に、「ここまで達成しているから、あと少しで目指す未来に近づく」といったイメージが具体的に描けるようになると、より良いのではないかと常々思っております。そのためには、まず少し先の将来像を見据え、その目標に対して現在とのギャップや課題を整理しながら進めていくことが大切であると考えます。

また、恵那に来る際に市街地を通ると、率直に申し上げて魅力を感じにくい部分もありますが、一方で、山並みと調和した景観の地域を見た際には、非常に素晴らしいと感じることがあります。そうした違いは、単なる景観だけでなく、その場に立ったときに感じる「空気感」や「文化の厚み」によるものではないかと思えます。

このように、説明しなくても魅力が伝わる空間をどのように形成していくかは、日本全体の大きな課題でも感じています。例えばヨーロッパの都市の中心市街地では、特に説明がなくても、その場の価値や魅力を自然に感じることができます。

本計画においても、そうしたレベルの魅力や質の高さを将来的に実現できるよう、取り組んでいく必要があると考えております。よろしくお願いいたします。

5. 議事

令和7年度進捗管理・評価について

事務局

(西尾、塚本)

(資料2に基づき事務局から説明)

堀委員

今すぐの回答でなくていいので、伝建地区による建物保存・改修件数はどれぐらいありますか。

対象エリアが限定されており、以前、地域の方から「自分の地域は対象エリア外のため、改修したくても制度が使えない」との声を聞いたことがあります。このような状況を踏まえると、対象エリアの見直しについても重要な

視点ではないかと考えております。

また、先ほど事務局から説明のありました中山道周辺の現地の状況についてですが、通り沿いに施設が整備されている一方で、近接する場所に複数のトイレが設置されているなど、やや過剰な配置となっている印象があります。さらに、その中には、地元住民による清掃や維持管理が行われなくなっている施設も見受けられます。

こうした状況を踏まえ、距離的にも非常に近接しているため、古い施設については廃止を含めた見直しも必要ではないかと考えております。今後は、エリアの見直しとあわせて、施設の統廃合や維持管理のあり方についても検討していくことが重要ではないかと思います。

出村会長

大変重要なお意見だと思います。要するに、計画は作って終わりではなく、その結果としてどうなったのか、またその後の維持管理や、変化した状況の中で次に何をすべきかまで考えていく必要があります。

風致維持向上の取組は、固定された未来に向かって進むものではなく、状況に応じて継続的に更新していくべきものです。そのためには、まず現状として全体がどこまで達成できているのか、どのような課題が見えてきたのかを把握し、それに対して次にどのような手を打つのかを検討することが重要であり、いわゆる PDCA の視点が必要だと考えます。

しかしながら、現行のシートからは、そうした達成度や課題、次の対応といった流れが見えにくい部分があります。例えば、「計画実施のための体制」についても、現状は組織体制の説明にとどまっており、実際にどのように機能し、どの程度進んでいるのかが分かりにくい印象があります。

そのため、全体の達成度の確認や課題の抽出について、継続的に議論・見直しを行っている旨を明記するなど、進捗や実効性が見える形で記載を工夫した方がよいのではないかと考えますが、事務局としてのお考えをお示しただければと思います。

事務局
(西尾)

計画の実現に向けた体制についてはこれまで継続的に整理してきたが、ご指摘のとおり、その体制が実際にどの程度機能し、計画の実現にどのようにつながっているかが分かりにくい点は課題として認識している。

今後については、計画の達成度や進捗状況、現時点での課題が明確に把握できるような指標や評価の仕組みを整理し、本項目に反映させていく方向で検討していきたい。

出村会長

少なくとも、チェックの仕組みがルーチンとして機能する形になっていることが望ましいと考えます。達成した内容が適切に蓄積され、その状況が可視化されていること、また、そこから新たに見えてくる課題が整理されていることが重要です。

さらに、本日の議題にも今後の方向性についての議論が予定されているように、中長期的な視点、例えば 4～5 年後を見据えた全体計画の見直しについても、徐々に視野に入れていく必要があると考えます。

そのため、こうした取組を試行的にでも実施している旨や、継続的な評価・見直しを行っている姿勢を明記することで、より適切な評価にもつながるのではないかと考えます。こうした観点から、記載内容に少しでも反映していただければよいのではないかと考えます。よろしくお願いたします。

鈴木委員

意見というより確認になりますが、13 ページの文化財防災の項目についてお伺いします。

資料を拝見しますと、消防設備の整備について「周辺景観に調和したものとして、今後修理等を行う」といった趣旨の記載がありますが、対象となっている建物の中には、すでに修理や設備設置が完了しているものも含まれて

いるように見受けられます。

例えば、木村家などについては、すでに火災報知器等も設置されているのではないかと思います。この記載はこれから新たに整備するという意味なのか、それとも過去に実施した内容がそのまま残っているものなのか、少し判別がつきにくい状況です。

もしすでに完了しているものであれば、「設置済」といった形で整理した方が実態に即しているのではないかと思いますし、今後も継続的に整備を行うという意味であれば、その点が分かるような表現にした方がよいと感じました。

本項目が長期間同様の記載で続いているようにも見受けられますので、どの時点の内容なのか分かるよう、表現の整理についてご検討いただければと思います。

出村会長

同様の点として私も気になったのが、4 ページの計画に関する記述です。景観形成に対する対応の部分について、計画策定当時の取組がそのまま記載されているように見受けられ、現状とのずれがあるのではないかと感じました。

特に、「平成 21 年度から地域住民で構成するワークショップを開催した」といった記述については、既に 10 年以上前の取組であり、現在も継続している内容なのか、過去の実績なのか分かりにくい印象があります。

事務局 (西尾)

歴まち計画等では「検討を行う」との表現が用いられておりますが、これについても、当時の景観計画や地域別景観計画の策定の可否について議論した経緯があり、その際に「作らない」と決定したわけではなく、検討自体は継続しているとの説明を以前の担当者から聞いております。

この点について、「検討を行った(過去)」のか、「検討を行っている(継続中)」のか表現の整理が必要と考え確認したところ、現時点においても検討を継続する意向があるとのことであり、その旨についても関係者から同様の認識であることを伺っております。

以上を踏まえると、当該箇所については「検討を行っている」という現在進行形の表現としつつ、あわせて時点の整理を行うなど、実態に即した記載となるよう整理していただくことが望ましいと考えます。

出村会長

「平成 21 年度から」といった記述が現在までそのまま続いているため、年度が分かりにくくなっている印象があります。発言の中でも現在の状況として触れているものの、表現上は過去の記述がそのまま継続しているように見えてしまい、年度の整理が不十分に感じられる点があります。

このため、現状としては長期間記載が更新されていないように受け取られ、「内容が見直されていないのではないか」「取組が継続されていないのではないか」といった疑念を招く可能性も否定できません。実態とは異なる印象を与えないよう、適切に表現を見直す必要があると考えます。

特に国への提出資料であることも踏まえると、「更新されていないのではないか」といった誤解を招かないよう、時点を整理したうえで現状に即した記載へ修正することが望ましいと思われまます。

鹿島委員 (代理：原)

先ほどの議論にも関連しますが、この評価シートについては、過去にどのような取組が行われてきたのかが十分に分かりにくい点があると感じております。現状では、このシートは主に国提出用の評価資料という位置付けになっているように見受けられます。

そのため、本協議会としての議論にあたっては、これまで実施してきた取組と、今後実施していく予定の取組の全体像が分かる資料を別途整理し、その資料と評価シートを併せて評価していく形が望ましいのではないかと考え

ます。事務局におかれては、そのような整理をご検討いただければと思います。

出村会長

それを踏まえた評価を行うにあたっては、達成度について明確に示すことも重要です。付属資料で全体を俯瞰しながら議論することは非常に有効であり、その内容を活かして、定性的・定量的評価の欄においても、例えば「一定期間でどの程度達成できているか」といった点を客観的に示せるようにすることが重要だと考えます。

一度このような整理を行えば、その後は継続的に積み上げていくことが可能となるため、資料整備としても非常に有意義であると考えます。

佐橋委員

先ほど会長からも冒頭で、歴史的風致を 5 つ設定しているという説明があったかと思いますが、それぞれの歴史的風致に対する取組が実際にどのように進んでいるのか、という視点も加えていただくと、全体像がより分かりやすくなるのではないかと感じました。

あわせて、その内容を補足する形で付属資料を作成し、来年度以降はそれも含めて確認できるようにしていただけると、より適切な評価につながるのではないかと思います。

西尾委員
(代理: 額瀨)

今回の評価にあたって、基本的に本協議会で評価する対象は、大元の計画の該当部分、具体的には計画書の 129 ページ以降に示されている評価項目に基づくと理解でよろしいでしょうか。

事務局
(西尾)

計画書の 129 ページから 131 ページまでの 3 ページが、本協議会における基本的な評価項目、いわゆる評価の枠組みとなっているという認識で問題ありません。

西尾委員
(代理: 額瀨)

129 ページ以降の評価項目との関係についてですが、正直なところ、本日初めて参加した立場としては、評価シートと計画本体との対応関係がやや分かりにくく、どの部分がどの項目に該当するのかがすぐには把握しづらい印象を受けました。

誤解を恐れずに申し上げれば、全く結びついていないというわけではありませんが、両者の関連性がもう少し明確に見えるよう整理されていると、より理解しやすいのではないかと感じました。

やはり、計画と評価が連動した形で示されることが重要であり、その意味でも両者に対応づけた評価のあり方が望ましいと考えます。加えて、先ほど他の委員からも意見があったように、これまで実施してきた取組を一覧で整理することは非常に有効であり、全体の把握にもつながる重要な資料になると思います。

また、歴史的風致という分野は、恵那市の他の計画と比較しても内容が専門的で、評価の仕方自体が難しい分野であると感じています。私自身も資料を拝見しましたが、非常に専門性が高く、どのように評価するのが適切なのか判断が難しい部分がありました。

そのため、評価にあたっては、ある程度整理された基準や、分かりやすい形での評価方法を構築することが必要ではないかと感じております。

出村会長

その点については、今後の計画見直しにおいても意識していく必要があると思います。評価の方法と計画内容がしっかり結びついていることが重要です。

現状としては、既に策定されている計画に対して、どのように評価シートと対応づけていくかが大きなポイントになると思います。おそらく評価シートの様式自体は変更が難しい部分もあると思われますが、その分、記載内容の工夫によって対応していく必要があるのではないのでしょうか。

その中で、先ほどから議論されているように、付属資料等を活用して不足している情報を補い、全体像が分かるように整理していくことが重要になってくると感じています。
以上のような点を踏まえ、対応を検討していただければと思います。

山田委員

実際に生活している中で、「こういう形にしたい」という思いを持つ住民の方も多くいらっしゃいますが、建物は個人の資産であることから、修繕や改修の負担は大きく、近年の建築費の高騰もあり、「やりたいが手が出せない」という声を多く耳にします。補助制度による支援はあるものの、それだけでは十分に対応できていないのが実態であり、住民の努力に加えて、それを支える仕組みづくりが必要であると感じています。

出村委員

維持していくための仕組みは従来の上では難しくなっており、行政がどこまで支援すべきか、あるいは民間の力をどのように活用するかについて、今後しっかり議論していく必要があります。個人資産の集合体としての街並みをどう維持していくかは容易ではなく、制度や規制だけでは対応しきれない部分もあるため、持続可能な仕組みの構築が求められていると感じます。

特に、空き家の増加をどのように抑制するかについては、最終的には利活用の促進が重要となりますが、そのためには利用する側のメリットや動機づけを制度として整えていく必要があります。経済的な観点での仕組みづくりか、あるいは地域コミュニティ維持の観点からの支援かなど、様々な考え方があの中で、方向性について十分な議論を行う場を設けることが必要であり、これは喫緊の課題であると認識しています。

また、こうした現場の課題については、単に計画どおり事業を実施したという報告にとどまらず、進捗の中で見えてきた課題としてきちんと記録し、評価の中に反映していくことが重要であると考えます。

伊藤委員

評価シートの「実施・検討にあたっての課題と対応方針」欄については、現状の課題をより具体的かつ深く記載し、計画を推進する中で直面している現実的な問題についても明示することが、次の施策につながる重要な資料となるのではないかと考えます。

表面的な成果だけでなく、社会的な変化により逆行している要因などについても記載しておくことで、将来的に必要な対応を検討する際の基礎資料となり得るものと思います。こうした内容を丁寧に整理していくことが、より実効性のある計画運用につながるのではないかと考えます。

出村会長

いずれの地域でも共通して抱えている課題であると認識しております。理想としては、こうした本日の議論で出された意見や検討事項が、評価シートの「課題および対応方針」欄などに適切に反映されていくことが望ましいと考えます。

また、先ほどからの議論とも関連しますが、この評価シートは様式自体の変更が難しい中で、「計画に記載している内容」がそのまま記載される構成となっているため、現行計画に基づく内容が古いまま残っている場合には、適切に更新していく必要があると感じます。あわせて、各記載内容が計画のどの事業や方針に基づくものなのかを明確に示すことで、計画と評価の対応関係がより分かりやすくなるのではないかと考えます。

そのうえで、事業の実施状況については個別に評価が記載されていますので、今回のような議論を踏まえた課題や対応方針についても、評価の一環として明確に位置づけていくことが重要であると考えます。

後藤委員

山田委員から岩村の状況についてご説明いただきましたが、私も概ね同じ認識を持っております。

確かに、補助金があることで修繕が進み、街並みも昔と比べれば大きく改善されてきていますし、観光客の方が訪れて写真を撮られるなど、一定の効果が出ている点は評価できると思います。

しかしその一方で、実際に周囲を見渡すと空き家が非常に多く、隣が空き家、前も空き家、さらに少し離れてまた空き家というような状況も見られます。すべてがそうではありませんが、空き家の増加は深刻な課題であると感じています。

また、空き家だけでなく、高齢化の進行により居住されていた方が施設に入られるケースも増えており、実質的に管理が行き届かない住宅が増えている現状もあります。身寄りが少ない、あるいは日常の維持管理が困難な世帯も増えており、地域全体として同様の状況が広がっているのではないかと感じています。

一方で、観光については、最近は来訪者もやや増加しており、にぎわいが戻りつつある印象はあります。ただし、朝ドラ「半分、青い。」の舞台となった当時ほどの大きな集客には至っていないものの、一定の回復傾向は見られます。国内の観光客を中心に増えてきている印象です。

このように、街並みの改善や観光面での明るい動きがある一方で、空き家や高齢化といった厳しい現実が並行して進んでおり、今後に向けてしっかりと課題認識を持って対応していく必要があると感じています。

鈴木委員

しっかりと問題意識を持たないと将来的に非常に厳しい状況になるのではないかと感じています。

ただ、明るい動きもわずかではありますが見られます。空き家対策については、地区の協議会の中で「空き家対策委員会」を組織し、私もそのメンバーとして関わっています。

この委員会は、一昨年頃から立ち上がったもので、以前にも別の形で空き家対策に取り組んだ経緯はあるのですが、改めて組織として体制を整え、現在は対象となる空き家の把握や整理を進めている段階です。

まだ始まったばかりで試行錯誤の部分も多いですが、今後の具体的な取組に期待しているところです。

出村会長

兵庫県たつの市の空き家活用の事例についてご紹介します。非常に先進的な取組であり、容易に模倣できるものではないものの、示唆に富む内容だと感じています。

この事例では、まず専門の会社を立ち上げ、その会社が空き家を買取ります。その後、その物件を活用したい事業者や店舗経営希望者を自ら探し、マッチングを行います。そして、利用者のニーズに合わせて空き家を改修し、建物とテナントを一体的な価値として再生します。

こうして完成した物件は、魅力的な事業としてパッケージ化され、資金力のある外部の購入者に販売されます。これにより、所有者（オーナー）が入れ替わり、物件は新たな形で運用されることとなります。テナントは運営会社に賃料を支払い、運営会社はそれを新たなオーナーへ還元するという仕組みです。

この手法は、空き家を抱えていても活用できずに困っている所有者が多い状況に対して、有効な解決策の一つといえます。特に歴史的価値の高い古い建物を活かしながら、新たな用途を見出し、地域の魅力として再生していく点に特徴があります。

一方で、この仕組みは資金力や企画力を持つ主体が必要であり、すべての地域で実施できるものではありません。また、外部の人が所有者となることに対して、従来の地域コミュニティが抵抗を感じるケースも想定されます。歴史ある地域ほど、こうした変化に対する慎重な姿勢が強い傾向にあります。そのため、このような取組を進めるにあたっては、地域内での合意形成や十

分な議論が不可欠であり、単なる施策として導入するのではなく、地域の特性や価値観を踏まえた検討が求められます。

いずれにしても、空き家対策の鍵は「活用」にあり、そのための仕組みや仕掛けをいかに構築していくかが重要であるという点は共通していると考えます。

一通り皆様からご意見を頂戴いただきましたが、さらに追加でご発言のある方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。

堀委員

令和 7 年度の評価に関連して確認させていただきたい点があります。

各事業については、事業期間が令和 2 年度から令和 11 年度まで設定されているものと、そうでないものがあると認識しております。例えば、道路整備事業については、一定の年度で事業期間が区切られているように見受けられますが、このような事業については、期間終了後に第 3 期計画の中で引き続き実施することを想定されているのか、それとも当該期間で完結する事業として整理されているのか、お考えをお伺いしたいと思います。

また、実際の現地状況を見ますと、同じ中山道であっても、整備が進んでいる区間と未整備の区間が混在しており、場所によって整備状況に差があると感じています。先日も現地を歩いた際に、その差に違和感を覚えたところです。

この点を踏まえ、整備の対象範囲について全体としてどこまでを見込んでいるのか、あらかじめ全体像が設定されているのかについても、あわせてお伺いできればと思います。

**事務局
(堀)**

今のご指摘は道路整備事業に関するものかと思いますが、現時点で第 3 期以降にどのように位置付けていくかについては、まだ明確に決まっているわけではありません。

今後の第 3 期計画の策定にあたっては、地元の保存会をはじめとする関係団体のご意見も伺いながら、継続の必要性や優先度を含めて検討していきたいと考えております。そのため、現段階では今後の方針については未定の部分もあり、まずは関係者の意見を踏まえて方向性を整理していく予定です。

出村会長

本日は様々な観点からご意見をいただきましたが、いずれも本評価内容を補完し、より充実させるための重要なご指摘であったと認識しております。特に、先ほど伊藤委員からもご指摘がありましたように、評価シートの中で反映可能な箇所については、可能な限り本日の議論内容を整理し、記載内容に反映させていただきたいと考えております。

また、評価シートの自由記述欄において、本日の委員会で出された意見や指摘事項を明記することも有効ではないかと考えます。そうした内容を一定程度整理し、明確に反映していただくことで、より実態に即した評価資料となるのではないかと考えます。

そのうえで、取りまとめた内容をもとに国へ提出していただければよいのではないかと考えます。

それでは、本議題については以上とし、終了させていただきます。ありがとうございました。

6. その他

第 3 期恵那市歴史的風致維持向上計画策定に向けたスケジュールについて

**事務局
(西尾)**

(資料 3 に基づき事務局から説明)

出村会長

非常に前向きで意欲的なご説明をいただき、「これからしっかり取り組んでいく」という姿勢が伝わってきたように感じました。

そのうえで、先ほどまでの議論も踏まえまして、まず現状分析として「現時点でどこまで達成できているのか」を把握することが、極めて重要な基礎情報になると思われます。

今回提示されているスケジュールを実効的なものにしていくためにも、この現状の達成状況を、できるだけ早い段階で整理し、見える形にしていく必要があるのではないのでしょうか。

おそらく、この作業が本年度における最初の重要な取組になるものと感じております。

以上を踏まえまして、そのほかの観点からもご意見等がございましたら、お願いしたいと思います。

伊藤委員

歴史的風致という名称が付いている以上、伝統的な要素をどのように引き継いでいくかは非常に重要な視点だと思います。

一方で、将来に向けては、単に守るだけではなく、新しい要素も取り入れながら、変化させつつ継続していくという考え方も必要ではないかと感じています。

この「継承」と「変化」のバランスは、国の事業であっても非常に難しい課題であると認識しています。

例えば今回の資料にある事例でいえば、大井の武並神社の渡御行列や、岩村や明智で行われている行列などがありますが、かつては行列の中で楽器を演奏する担い手が存在していたものの、現在では担い手不足により実施できていないケースも見受けられます。

大井地区では、以前は存在していたものの、現在は担い手の高齢化などにより継承が難しくなり、軽トラックにスピーカーを載せて対応しているような状況もあります。私自身も実際にその行列に参加した経験がありますが、形を変えながら何とか続けているというのが現状です。

このように、実施できているものと、すでに途絶えてしまっているものが混在しており、今後それらをどのように再生・復元していくのか、あるいは新しい形として継承していくのかといった点は、しっかりと整理していく必要があるのではないかと感じています。

そのためにも、こうした現状を改めて整理し、どのような方向性で取り組むべきかを検討する場を設けながら、議論を深めていくことが重要ではないかと思っています。

出村会長

その意味では、可能性のあるものをどれだけ引き出していけるかが重要であると感じています。

以前この委員会でも申し上げたかと思いますが、私自身、岐阜で歌舞伎に関わったことがありまして、いわば担い手として半ば巻き込まれるような形で参加した経験があります。

そのときの感覚としては、少し関心を持つと自然と関わる機会が生まれる、いわゆる「巻き込み型」の参加の仕組みも、ひとつの継承のあり方ではないかと感じています。

もっとも、そうした方法でも成り立たなくなっている部分もあるのかもしれませんが、いずれにしても、継承の可能性をどのように広げていくかが重要ではないかと思っています。

以上、私からはそのような観点で意見を述べさせていただきました。

堀委員

今、伊藤委員からのご意見にもありましたが、私として最も重要だと考えているのは、やはり現在実際に活動を担っている関係団体の状況です。

これら関係団体に対してどのように効果的な支援や対応ができるかが、何よりも重要であると感じています。

一方で、市民アンケートについては、どうしても第三者的な立場からの意見になりがちであり、現場の実情を十分に捉えきれない側面があると思います。

実際に関係団体の状況を見てみると、ご指摘のとおり、多くの団体が非常に厳しい状況に置かれており、中には活動の継続が限界に近づいているところや、「もうやめたい」という声が出ている団体も少なくありません。

ただ、地区ごとの実情については我々としても十分に把握しきれていない部分があると感じております。

そのため、まずは関係団体の現状や課題を正確に把握することが何よりも重要であり、できるだけ早い段階で丁寧なヒアリングや意見交換を行っていく必要があるのではないかと考えます。

こうした実態把握を優先的に進めることが、今後の施策を検討していくうえでの基盤になると考えております。

出村会長

まさに今のご指摘は、課題の核心に触れている部分だと思います。

おっしゃるとおりで、市民アンケートから何かを引き出そうとすると、どうしても意見がばらつきやすく、また責任を伴わない立場からの意見が多くなる傾向があります。そのため、実態を把握するというよりは、どちらかといえばエビデンスを補強する一つの材料としての側面が強いのではないかと感じています。

アンケートの結果は、最終的に公表する際の裏付けとしては有効かもしれませんが、現時点において皆さんの意見をそこに集約する必要は必ずしもないのではないかと思います。むしろ、もう少し後の段階で整理する方が良いのではないのでしょうか。

そのうえで、本日示していただいた方向性については、おおむねこの方針で進めていくということでご賛同いただいていると理解してよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、担当の皆様には、ぜひ前向きに取り組んでいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

また、もう一点申し上げますと、今回のスケジュールの中で、初期段階において関係団体との意見交換を行い、その後に目標を再設定するという流れが示されていますが、この「目標再設定」は一度きりのものではなく、継続的に見直されていく性質のものだと思います。

例えば、指標を再設定するタイミングで、同時に目標そのものも見直されることになるでしょうし、関係団体との意見交換についても、初期だけでなく、途中でも繰り返し行われる可能性があります。

そのため、一度矢印を通過したら終わりという単線的な流れではなく、複数回の見直しやフィードバックが繰り返されるプロセスであることが伝わるような表現にした方が、実態に即した計画になるのではないかと感じました。

こうした循環的なプロセスが分かる形に整理することで、「実際に何をどのように進めていくのか」がより具体的に見えてくるのではないかと思います。

出村会長

それでは、以上をもちまして、「その他」の議題を終了させていただきます。

7. 閉会 (14:56)